

**令和6年度
札幌市青少年科学館
管理業務事業計画書**

公益財団法人札幌市生涯学習振興財団

令和6年度 事業計画書

(令和6年4月1日 から 令和7年3月31日まで)

【運営方針】

当法人は、札幌市における生涯学習の普及振興に資する事業を行うとともに市民の学習活動を総合的に支援し、もって生涯学習の推進に寄与することを目的とし、定款(第4条)に次の事業を行うことを定め、この内容に沿った事業を展開していきます。

- (1) 生涯学習に関する学習機会提供事業
- (2) 生涯学習に関する活動支援事業
- (3) 生涯学習に関する指導者・支援者の養成・活用事業
- (4) 生涯学習に関する情報収集・提供事業
- (5) 生涯学習関連施設の管理運営事業
- (6) その他 この法人の目的を達成するために必要な事業

【事業区分】

実施する事業については、公益目的事業と収益事業等に区分し、以下のとおりとします。

<公益目的事業>

生涯学習普及振興事業

I 札幌市生涯学習センター管理運営事業

- 1 学習機会提供・活動支援事業
- 2 学習支援者活用・育成事業
- 3 生涯学習センター管理運営事業

II 札幌市青少年科学館等管理運営事業

- 1 科学及び科学技術普及振興事業
- 2 青少年科学館等管理運営事業

<収益事業等>

物品販売等事業

生涯学習施設の公益目的外貸与等事業

II 札幌市青少年科学館等管理運営事業

(目的) 札幌市からの指定を受け、科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通して創造性豊かな青少年の育成を図ることなどを目的として、札幌市青少年科学館及び札幌市天文台の管理運営を行う。

1

科学及び科学技術普及振興事業

青少年を主とした幅広い年齢層を対象に最新の情報や技術に触れる機会を提供し、科学及び科学技術に関する知識の普及振興を図る。

(1) 科学に関する教室・講座

ア 科学教室

(ア) 日曜実験室

小中学生を対象に、科学現象をテーマにした実験教室を実施する。

(イ) 学習実験教室

小学生を対象に、教育課程に則った内容で、実際に科学に触れることができる実験教室を行う。

(ウ) サイエンジャー科学教室

主に、小中学生を対象に、科学や科学技術を体験的に学ぶ機会を提供する。また、高校生以上の市民向けの講座についても実施する。実施にあたっては、専門機関や企業などとも連携して行う。

(エ) 科学館の工作室

主に小中学生を対象に、科学原理の理解を深めるとともにものづくりへの興味・関心を高めるために、簡単な工作教室を実施する。長期休業期間には、自由研究等に活かせるような工作会を実施する。

(オ) 大人のための天文教室

広く市民が天文について学べる機会を提供するため、初心者向けや中級者向けなど参加者のレベルに合わせて、天体観測機器等を活用した天文教室を実施する。

(カ) 親子天文教室

楽しみながら基礎的な天文知識を身につけ、天体への興味・関心を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に、天文工作と天体観測を組み合わせた教室を実施する。

(キ) 宇宙セミナー

宇宙・天文についての興味・関心を高めるため、第一線で活躍する専門家を招き最新の天文情報に基づく講座を実施する。

(ク) 先端科学技術講座

最先端の科学技術への興味・関心を高めるため、最新の科学研究について紹介する講演会を実施する。

(ケ) 大学生による科学教室

大学生の科学教育研究を支援するとともに、子どもたちの科学への興味・関心を高めるため、大学生が小中学生を指導する科学教室を実施する。

(コ) 他施設への職員派遣

他施設・団体からの依頼に応じ、職員を派遣するなどして、事業を行う。

a 他施設での実演

サイエンスショーや実験等の実演を行う。

b 他施設での投影

移動プラネタリウムなどを用いて、投影や星空解説を行う。

イ 出前イベント

(ア) 移動天文台

市内各地に移動天文車と天文指導員を派遣することを通して、市民に天体観望の機会を提供して新たに天文に興味をもつ市民層を広げる。

(イ) 移動プラネタリウム

様々な事情により来館困難な学校などで、移動プラネタリウムを用いた投影を行うことで、学校教育との連携を図り、児童・生徒の天文に対する興味関心を喚起する。

ウ その他科学普及に関する事業

(ア) 科学クラブ運営

小中学生を対象に会員を募り、会員限定イベントの実施や各種講座の情報提供を行い、科学への興味・関心を高める。

また、イベント等の参加回数に応じた特典を設けるなど、リピーターを増やすとともに、科学館への愛着を育む取組みを行う。

(イ) 職場体験などの受入れ

児童・生徒の教育支援、地域との連携及び市民への科学知識の普及啓発に貢献するため、職場体験等を実施する。

(ウ) 実験実習セット貸出し及び制作

小中学校での効果的な授業作りに役立つ実験・実習セットの貸出を行う。

(エ) 教員研修

小中学校の教員を対象に、教材研究に協力するとともに、実験技能を中心に、教員の理科教育に係る資質・能力の向上につながる研修を行う。

(オ) 博物館実習の受入れ

学芸員等の資格取得を目指す大学生等を受入れ、指導する。

エ 共催事業・協力事業

(ア) 「宇宙の日 作文・絵画コンテスト」

主催：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、公益財団法人日本宇宙少年団

青少年の科学技術や宇宙開発への興味・関心を喚起するため、「宇宙の日(9月12日)」を記念して、上記の団体等が主催するコンテストの応募作品を募集し、審査・表彰に協力する。

(イ) 夏休み天体観望会

星雲や流星など、市街地では観察困難な明度が低い天体を見る観望会を、光害の影響を受けないところで実施する。

(ウ) さっぽろ星まつり

市民の天文への興味、関心を高めるために、天体観望会、天文愛好家による星空観察等のイベントを市内の大規模公園等で実施する。

(エ) 他団体との連携による科学教室

大学や学会等の研究成果の理解や啓発のため、小中学生向けの科学教室等を開催する。

(2) ボランティアなどの育成・活用事業

ア 天文指導員の養成

天文に興味を持っている学生や一般市民に、定期研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成する。

イ 展示ボランティア等の養成

幅広く科学について学びたい市民に自己啓発と活動の場を提供し、来館者へ展示物の理解を促すため、展示ボランティア等の養成を行う。

(3) 科学に関する情報の収集・提供

ア 科学資料の収集

(ア) 科学技術に関する資料の収集

実演や展示物の解説、展示物の更新・改良の基礎資料とするため、市販の出版物や他施設における発行物などを収集する。収集した資料は、提供・活用する。

(イ) 天文資料の収集

天文に関する解説資料や出版物を収集するとともに、札幌市天文台及び移動天文車などを活用して天体写真を撮影し、資料として収集する。収集した資料は、提供・活用する。

イ 科学情報の提供・学習支援

(ア) 「星空散歩」の発行

その季節に見ることができる天体や星座、タイムリーな話題を紹介し、市民の天文への興味・関心を喚起する。

(イ) 天文相談コーナーの運営

天体望遠鏡や参考図書などを備えた天文相談コーナーを設置し、初歩的な質問に答えるなど、来館者の天文学習を支援する。

2

青少年科学館等管理運営事業

施設機能を活かして科学及び科学技術に関する知識の普及啓発と、創造性豊かな青少年の育成を図るために、必要な施設を管理運営し、生涯学習の普及啓発に寄与する。

(1) 展示関連事業

ア 科学館展示

(ア) 常設展示

「見て・触れて・考える」をテーマに、各コーナーの展示物をより楽しく、理解しやすくなるよう努め、来館者に科学への興味・関心を深めてもらう。

(イ) 展示実演等

科学の原理や技術の理解を楽しみながら深められるよう、サイエンスショーなどの実演等、参加型の展示実演等を行う。

(ウ) 実験・実習への協力

市内の小中学校を対象に、学習指導要領を踏まえた内容で、子どもの興味関心を高める実演や実験、実習を行う。

イ 特別展等

(ア) 特別展

長期休業期間に合わせ、話題性の高いテーマや特定のテーマを深く掘り下げた体験型展示を中心とした特別展を開催する。

(イ) 環境科学展

企業や団体と連携し、環境問題と対策技術の現状などについて、子どもたちにわかりやすく紹介するイベントを開催する。

(ウ) サイエンス広場

中学校や高校の科学部等に、研究成果を発表する機会を提供するとともに、生徒が企画・運営する科学体験ブースを設け、来場する子どもたちが科学体験のできるイベントを開催する。

(工) 連携企画展

企業・団体等と連携し、体験型イベントを開催する。

(2) 天文関連事業

ア プラネタリウム投影・解説

(ア) 一般投影

職員による解説を含む投影で、年齢や理解程度に応じて柔軟に対応し、市民にわかりやすい星座、天文の解説を行う。

(イ) 学習投影

小中学校を対象に、学習指導要領及び各学校の教育課程を踏まえ、理科授業の一環として、天体の動き等を学習するプラネタリウム投影を行う。

(ウ) オート番組制作

プラネタリウム投影時に上映するオリジナルのオート番組(ドーム全体に投影されるアニメーション動画)を青少年科学館の特色・独自性を生かして制作するとともに、市販の番組購入や既存のオリジナル番組のリメイクを検討する。

イ プラネタリウム特別投影

(ア) 特別投影

通常のプログラムとは趣向を変え、タイムリーな話題や現象について深く掘り下げ、天文に興味のある人にさらに深く、広く考えてもらえるような投影を行う。

(イ) 字幕付きプラネタリウム

耳の不自由な方々にもプラネタリウムを楽しんで頂けるように、字幕付きの投影を行う。

(ウ) キッズプラネタリウム

親子でプラネタリウムを楽しんで頂けるよう、未就学児とその保護者を対象とした投影を行う。

(エ) プラネタリウム祭り

プラネタリウムの可能性や認知度を高めるとともに、その魅力を広く市民に伝えるため、コンサートや絵本の読み聞かせなど、科学以外のジャンルと組合せた内容のイベントを実施する。

ウ 天体観望事業

(ア) 科学館観望会

科学館公園や館の玄関前、駐車場や屋上など館の敷地を活用し、誰でも気軽に参加できる天体観望会を、定期的で開催する。望遠鏡を用いて、各季節の星や惑星の観望を行ない、天体に対する興味関心を喚起する。

(イ) 札幌市天文台公開

天文に関する興味関心を高めるため、札幌の中心部にある中島公園内の札幌市天文台を公開し、日中は太陽を中心に、夜は月や季節の星座の観望会を実施する。

(ウ) 昼間の星を見よう！

科学館屋上天文台等を活用し、昼間に見ることのできる星を観望する機会を提供する。

(3) その他施設運営

ア 「科学館ニュース」の発行

最新のイベント情報を周知するために、「科学館ニュース」を毎月発行し、館内に掲示するとともに、市内小中学校や区役所、区民センター、図書館などへの配布を行う。

イ 利用者などの声を生かす取組み

(ア) 利用者アンケートの実施

館の運営や事業に活かすため、利用者へのアンケート調査を行う。

(イ) 科学館運営協議会の開催

学校関係者や学識経験者、地域有識者などによる協議会を開催し、事業を検証するとともに、委員からの意見や提言を今後の管理運営に生かす。

ウ 科学館感謝デーのイベント

昭和 56 年 10 月の当館開館を記念して、10 月の第 1 土曜日に私たちの生活と科学及び科学技術の関わりについて考えるイベントを行うことで、科学館の役割を広く市民にPRする。

エ リニューアルオープン対応

4月1日のリニューアルオープンに伴い、混雑が想定されることから、緩和策やスムーズな誘導対応を実施する。

(ア) オンライン予約システムの導入

展示室およびプラネタリウムにおいて、オンラインでの事前予約及び事前決済を導入し、スムーズな入場を促す。

(イ) 混雑時の誘導対策

混雑が予想されるため、展示室内に誘導人員を配置するほか、整理券発券機を導入するなどして、解消を図る。

物品販売事業

(定款第 4 条第 1 項第 6 号に掲げる事業)

(1) 売店の運営

札幌市青少年科学館への来館者への便益提供を目的として売店事業を行う。

再開館により来館者の増加が予想されるため、商品ラインナップの強化や販売促進策の検討を行い、増収増益を目指す。

(2) 自動販売機の設置・販売

札幌市青少年科学館の来館者への便益提供を目的とした自動販売機事業を行う。